

北海道、高温伝説ならずー2025年7月24日の記録

VOL.16[2025.8]

2025年、夏。8月5日に群馬県伊勢崎アメダスで国内観測史上最高の41.8℃が観測されるなど、一部で噂された統計論による冷夏説を跳ねのけ、7月終了時点では観測史上最高の猛暑となっています。北海道でも7月23、24日は北見で39℃、帯広で40℃の最高気温が予想されるなど、北海道史上初の40℃超えも恐れられました。しかし、結果は24日の北見39.0℃が最高で、2019年5月26日に佐呂間アメダスで観測された道内観測史上最高の39.5℃を超えるまでにはいたりませんでした。

【表1】北海道アメダス 各月（5～8月）最高気温記録（2024年まで）

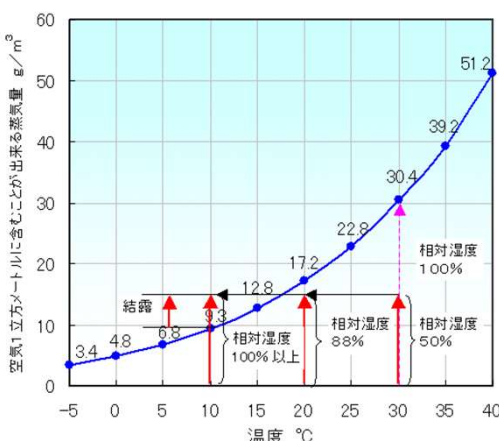
月	支庁	アメダス地点	起日	℃
5	網走	佐呂間（さろま）	2019年5月26日	39.5
6	十勝	駒場（こまば）	2014年6月3日	37.8
7	上川	江丹別（えたんべつ）	2021年7月31日	38.4
8	留萌	達布（たつぷ）	2021年8月7日	38.7

【表2】アメダスの最高気温と最小相対湿度の比較

アメダス地点	2019.5.26 最高気温	2025.7.24 最高気温	2019.5.26 最小湿度	2025.7.24 最小湿度
佐呂間	39.5℃	38.6℃	—	—
帯広	38.8℃	38.8℃	10%	24%
足寄	38.8℃	38.1℃	—	—
池田	38.8℃	36.2℃	—	—
北見	38.1℃	39.0℃	—	23%

【表3】POTEKAの最高気温と最小相対湿度の比較

POTEKA地点	2019.5.26 最高気温	2025.7.24 最高気温	2019.5.26 最小湿度	2025.7.24 最小湿度
清里町江南	37.8℃	36.2℃	15%	31%
士幌町役場	37.6℃	37.6℃	11%	20%
清里町羽衣	37.2℃	37.1℃	15%	28%



【グラフ1】気温と相対湿度の関係
（日本建材・住宅設備産業協会HPより）

表1は、北海道におけるアメダスの各月（5～8月）の2024年までの最高気温記録を示したものです。一般的に、6⇒7⇒8月と夏が進むにつれて最高気温記録は上がっていきます。しかし、2024年までの6～8月の最高気温は、2019年春の終わり頃の5月26日に観測された、北海道の高温伝説ともされる最高気温39.5℃を超えることができていません。このように、北海道では、5月に観測された最高気温が、夏（6～8月）の期間中に更新されず、そのまま年間最高気温となることがしばしばあります。なぜ、このようなことが起きるのでしょうか？

近年、熱中症などで話題となる暑さ指数に強く関係する相対湿度に着目してみます。表2は、高温伝説2019年5月26日と今夏2025年7月24日に、道内で特に高温を記録したアメダス地点の最高気温と最小相対湿度です。残念ながら、アメダスは湿度観測をしていない地点が多く、両日共に湿度記録が残るのは帯広のみでした。POTEKAは全地点で湿度観測をしているので、表3にはこの両日に特に高温を記録したPOTEKAの最高気温と最小相対湿度を示しました。両日比較できる最小湿度を見ると、2019年5月26日は10%台で極端に低いのにに対し、2025年7月24日は20%以上で、特にPOTEKAでは30%を超えている地点もありました。

グラフ1に気温と相対湿度の関係を示しますが、大気中の水蒸気量が同じなら、相対湿度が下がると気温は上昇します。両日を比較すると、帯広アメダスと士幌町POTEKAの最高気温は同一でしたが、もし2025年7月24日の最小相対湿度を2019年5月26日と同じ水準まで下げた場合、理論上の気温は、帯広：38.8⇒57.3℃（湿度24⇒10%）、士幌町：37.6⇒49.9℃（湿度20⇒11%）に達すると計算されました。相対湿度がそこまで下がり切らない本当の理由は分かりませんが、まだ大気が乾燥している5月に比べて、湿潤となる7～8月には湿度が下がり切る限界があるのかもしれない。いずれにせよ、2025年7月24日は気温の記録としては高温伝説にはいたりませんでした。体感的には北海道観測史上最も厳しい猛暑であったと考えられます。